

ベトナムからの研修員であるMr. VU Tuan Anより近況活動報告のメールをいただきましたので、次頁に紹介させていただきます。

彼の役職は、Expert of Vietnam Institute of urban and rural planning (VIUP), Ministry of Construction in Vietnamで、彼は2025年10月にJICA九州にて行われた都市経営に関する研修コースに参加しておりました。

正式な研修コース名：持続的な都市開発のための都市経営(A)

コースリーダー：八田 正樹

行動計画（アクションプラン）

世界の「持続可能な開発目標（SDGs）」に沿った国際的な知見を踏まえ、ハノイ市の河川が持つ文化的景観としての価値を再生・活用するための基本原則を策定すること。

帰国後、私の主な焦点は、コースで得た知識の共有と、世界の持続可能な開発目標(SDGs)と並んで「エコ北九州」精神の推進にあります。知識共有セミナーを通じて、JICA 九州コースで作成した行動計画のプロトタイプを単に実施するだけでなく、プロジェクトマネージャーおよび主要な都市計画者として、これらの原則に関連する全ての計画プロジェクトに適用するつもりです。近年、ハノイ当局は河川の再生と非公式な河川開発の変革を市が直面する大きな課題として認識しています。従い、この問題に適切なアプローチを取ることが真に喫緊の課題となっています。

はじめに

ハノイ(ベトナムの首都であり、人口が 2 番目に多い中央政府直轄都市)は水によって生まれた都市であり、その変貌は今もなおこれらの水路を中心に展開し続けている(フィリップ・パパン、2001 年)。同市の都市計画戦略は、主要な河川を戦略的資産と位置づけつつ、「多極・多中心」型モデルによる都市開発の拡大を目指すものです。しかし、こうした都市化のプロセスは、建築や景観の構成要素、さらには川沿いの居住地域——すなわち、この千年古都の「文化的景観」としての価値を体現する空間——に直接的な影響を及ぼしています。

ユネスコ(2010 年)によれば、「文化的景観とは、自然のシステムと人間との相互作用によって、長い時間をかけて独特な景観が形成された場所を指す。こうした相互作用は、文化的価値の形成の源であると同時に、その価値をさらに発展させる要因ともなる」とされています。ハノイの河川という文脈にこの考え方を当てはめると、新たなアプローチが見えてきます。それは、川沿いの景観空間を単なる建設用地としてではなく、文化的景観としての価値を体現する存在として捉えるという視点です。

現状

実際、ハノイの河川沿いの空間は、現在多くの課題を抱えています。都市化が無秩序かつ断片的に進行しており、伝統的な居住地域の特性が徐々に失われつつあります。河川沿いに見られる数多くの際立った建築的・景観的特徴は、その保存・活用・振興に向けた特定がまだなされていません。こうした伝統的な集落は、無計画な拡大や、異質で調和を欠く建築様式の侵入により、深刻な劣化の危機に直面しています。その一方で、河川沿いの住民は適切な社会的・技術的インフラの不足に苦しんでおり、一部の地域では無秩序な開発の結果、生活環境が不安定な状態に置かれています。

北九州と紫川の事例研究

1950 年代を振り返ると、紫川の状況は今日のハノイ川の大部分と多くの類似点がありました。主な問題には、豪雨時の都市洪水や、川岸にスラムを含む自然発生的な集落の拡大が含まれていました。中心部の一部の地域は比較的整備されたインフラを持ち、景観の美しさを損なうことはありませんでしたが、自然災害のリスクに対する耐性に欠けていました。さらに、さまざまな原因による汚染が生態系の崩壊と水質の深刻な悪化をもたらしました。

「My Town My River」というプロジェクトが、紫川が流れる市中心部で開始されました。市政府がプロジェクト開発者を務める一方で、地域コミュニティが中核的な助言グループとして機能しました。この取り組みのもと、市は若い世代向けのコンセプトデザインのコンペティションを開催し、受賞作品を選定し、これらの地域社会が生み出したアイデアを実現しました。それに伴い、紫川は地域社会と深く結びついた文化的景観資産として存在しています。

紫川改修工程の主要なステップ

理論的にも実務的にも、紫川改修プロセスには 6 つの重要なステップがありました。(実施段階は優先順位と官民連携の仕組みに従い、地域社会の監督も受けました)

- 1) 洪水問題の解決(全過程で、河川の浚渫と拡幅、家庭廃水と雨水の分離、大規模な貯水タンクや地下排水導管の建設など、技術的措置が優先され厳格に実施されました)
- 2) 川沿いの交通の改善
- 3) 10 の橋の建設と改修(3 つの新橋建設と 7 つの既存橋の改修を含む)
- 4) 水質改善 実施に最も長い期間を要した(コミュニティが水質改善を確認できた時点で終了し、以前に姿を消していた魚種アユの復活によってそれが証明されました)
- 5) 川沿いに新たなオープンスペースの創出(川沿いのオープンスペースの拡張と厳格な保全)
- 6) 重要な建築空間の再構築

ハノイ首都の河川の文化的景観価値を修復し活用するための主要原則

北九州のケーススタディによると、世界の持続可能な開発目標(SDGs)に基づき、ハノイの首都河川の文化的景観価値を修復し活用するための 5 つの重要な原則があります。

- 1) 計画段階から関係者や市民を巻き込むこと。
- 2) 「民間セクター」とその「地域社会」にとって「利益を生む」システムを提供すること。
- 3) 長期計画と短期計画を組み合わせること。
- 4) プロジェクトが継続されなかった場合にどのようなデメリットが生じるかを強調すること。
- 5) 政府や地方自治体の裁量で変更できないような仕組みを構築すること。

結論

紫川での取り組みから得られた教訓は、ハノイの河川システムが直面する課題に対処する上で、極めて有益かつ実践的な知見をもたらします。北九州市での経験を踏まえ、ハノイの河川が持つ文化的景観としての価値を再生・向上させるための 5 つの主要原則を提案することは、経済・社会・環境の各側面において持続可能な発展を実現する上で、現実的かつ有効なアプローチと言えます。さらに、この提案は、現代性と伝統、そして都市空間と農村景観が調和し持続可能な形で融合する、文化的アイデンティティと独自の個性に富んだ首都を築くというビジョンとも合致するものです。



公式報告会の様子



セミナー：北九州市（日本）とソウル市（韓国）における都市管理・開発の経験を共有するセミナーにて、紫川（北九州）、漢江（ソウル）、清溪川（ソウル）という３つの主要な事例について発表



ハノイの主要な河川のひとつが、複数の排出源や非公式な居住地による汚染に苦慮（ベトナム・ハノイ市アンカイン（An Khanh）コミュニティを流れるダイ（Day）川の区間にて）